

奈良公園を訪れた人びとのシカ認識

People's Attitudes and Feelings towards Deer in Nara Park

高橋 春成*

Shunjo Takahashi

はじめに

1880（明治13年）年に創設された奈良公園は、春日大社、興福寺、東大寺などの境内敷地につくられたものであって、面積はおよそ660ヘクタールある。この公園には、現在1000頭を超えるニホンジカが生息している。

このシカは、1957年に文化財保護法による天然記念物に指定された。その理由は、「奈良のシカは、神鹿として崇められ愛護されてきたため人によく馴れ、集団で行動し、奈良公園の風景のなかにとけこんで、日本では数少ないすぐれた動物景観を生みだしている」ということであつた。

神鹿とは、シカを神の使いとして崇めることをいう。これは、日本古来の信仰である。春日大社は神鹿信仰の中心をなしてきたため、この周辺では古くからシカが大切に保護されてきた。奈良公園にシカが多いのは、このような歴史的背景によつてゐる。

ところで、奈良公園がある奈良市には毎年多くの人びとが観光に訪れる。しかも、国際観光都市を標榜する奈良市は海外からも多くの人びとを受けいれている。そして、ほとんど例外なくこれらの人びとは奈良公園を訪れる。このような中で、公園にゐる多くのシカは好むと好まざるにかかわらず観光の主対象の1つとなつてゐる。

本稿では、奈良公園を訪れる人びとがシカをどのように見ているのかを検討し、あるべき訪問者とシカとのかかわり方について考察したい。奈良公園を訪れる人びとのシカ認識については、公園を訪れた内外の人びとに対してアンケート調査を実施した。ここでは、これまでに整理したアンケートをもとに検討する。

1. 国内の訪問者のシカ認識

国内の訪問者544人にアンケート調査を実施した。まず、「奈良県」あるいは「奈良」と聞いて思い起すものを3つあげてもらつた。結果は表1に示した。これを見ると、大仏と並んでシ

平成11年9月9日原稿受理 *文学部地理学科



写真1 修学旅行生とシカ

表1 “奈良県”あるいは“奈良”と聞いて連想すること(544人)

		回答数(%)
シ	カ	404(74)
大	仏	357(66)
東	大 寺	88(16)
寺	社	79(15)
若	草 山	67(12)
奈	良 濱 け	57(10)
法	隆 寺	55(10)
奈	良 公 園	52(10)
古	都	47(9)
吉	野	18(3)

(アンケートより作成)

表2 居住地別のシカ回答数(率)

居住地別回答者数	シカ回答数(%)
A. 奈良市	54 40(74)
B. 奈良県(Aを除く)	70 44(63)
C. 近畿地方(A・Bを除く)	235 190(81)
D. 国内各地(A・B・Cを除く)	169 125(74)
E. 無記入	16 13(81)
計	544 404(74)

(アンケートより作成)

表3 奈良公園のシカの由来

	回答数(%)
自然分布	93(17)
神鹿信仰	92(17)
観光資源	54(10)
その他	82(15)
わからない・無記入	223(41)

(アンケートより作成)

カの回答数が圧倒的に多いことがわかる。つまり、シカは大仏とともに奈良のシンボルとなっている(写真1)。

表2は、回答者の居住地別にシカの回答数と回答率をみたものである。居住地を、奈良市、奈良県(奈良市を除く)、近畿地方(奈良県を除く)、国内各地(近畿地方を除く)に分け、それぞれの値を出したが、すべての居住地区分においてシカの回答数と回答率は高く、シカを奈良のシンボル

とする見方は全国区であることがわかる。

表3に、奈良公園のシカの由来に対する回答を示した。奈良公園のシカの由来についてはすでにふれたが、神鹿信仰と答えた回答はわずか17%にとどまった。そして、半数近くの人びと

が「わからない」あるいは「無記入」であった。このことから、「奈良」イコール「シカ」といったイメージが全国区であるにもかかわらず、多くの人びとはなぜここにシカがいるのかを知らないという問題点が浮かびあがってくる。

表4は、奈良公園のシカが野生であるかどうかを尋ねた結果である。回答

をみると、「人馴れしているが、野生である」が58%と最も多かった。この答えは正解であるので、正解が最も多かったことになるが、「飼育されている」も27%あった。

ところで、「人馴れしているが、野生である」との回答には、「人馴れ」と「野生」が同居している。このような回答が容易に受け入れられるのは、人間と動物の間がフェジーだといわれる日本人の特徴なのかもしれない。この点については、後でみる外国人と比較してみる。

このような見方のもとでは、シカにせんべい（公園で売っているシカせんべい）を与えることに抵抗がない。表5は、奈良公園に来てシカにせんべいを買って与えたかについて尋ねた結果である。これをみると、60%にあたる人びとがせんべいを買って与えていた。「野生」の動物に餌を与えることの悪影響は、動物の管理学、生態学、行動学などの学問分野で今日よく指摘されるところであるが、一般の日本人の多くには餌を与えることへの抵抗があまり認められない。この点についても、シカと人間の望ましい共存のあり方を考える上で今後検討を要する。

表6は、シカの食性について尋ねた結果である。シカは草食性の動物であるが、雑食と答えた人びとが42%もいた。多くの人びとがシカの生態や行動の詳しい知識を持ち合わせておらず、そのような状態でシカにせんべいを与えることがシカを雑食性の動物であると思うことにつながっているのではなかろうか。これらも今後の検討課題である。

表7は、奈良公園のシカによる周辺農地や住民への被害の発生について知っているかどうかを尋ねた結果である。知らないとの回答が57%で、知っているとの回答の39%をうわまわった。奈良公園のシカとの共存を考える時、華やかな公園内のシカにのみスポットライトを与えるのではなく、その周辺で生じているシカ

表4 奈良公園のシカは野生だと思いますか？

	回答数 (%)
純粋な野生のシカである	22(4)
人馴れがすすんでいるが、野生である	316(58)
飼育されている	147(27)
わからない	38(7)
無記入	16(3)

(アンケートより作成)

表5 シカせんべいを買って与えましたか？

	回答数 (%)
買って与えた	326(60)
買ってない	207(38)
無記入	11(2)

(アンケートより作成)

表6 シカの食性は？

	回答数 (%)
草食	272(50)
雑食	229(42)
肉食	0(0)
わからない	22(4)
無記入	16(3)

(アンケートより作成)

表7 シカの被害について

	回答数 (%)
知っている	212(39)
知らない	310(57)
無記入	22(4)

(アンケートより作成)

表8 奈良公園のシカを見て、シカに対するイメージが変りましたか？

	回答数 (%)
変わった	180(33)
変わらない	272(50)
無記入	92(17)

◆どのように変わったか？

なれなれしい ずうずうしい こわい
 かわいい おとなしい
 躍動感がない 健康的でない

◆なぜ、変わらないのか？

シカのイメージは奈良公園のシカからつくられた
 奈良公園と動物園のシカしか知らない
 奈良公園のシカしか見たことがない
 イメージ通り

(アンケートより作成)

るものと考えられる。奈良公園でシカと人びとが出会う昼間は、シカにとっては休息時間にあたるので、おうおうにして人びとはこのような印象をもつことになる。しかしシカには、夕方や早朝に活発に採餌する姿、移動や外敵からの逃亡時などにみせる躍動感あふれる跳躍の姿、あるいはまた夜間にみせる警戒のためのはりつめた様子など、様々な姿がある。人びとが出会う公園内のシカの姿は、その中の1つの姿にすぎないのである。

一方、変わらないと答えた人が50%もいた。これらの人びとに、なぜ変わらないのかを尋ねたところ、「シカのイメージは奈良公園のシカからつくられた」、「奈良公園と動物園のシカしか知らない」、「奈良公園のシカしか知らない」、「イメージ通り」などの答えがかえってきた。これらの人びとがいうシカのイメージとは、「おとなしく草をはむシカ」、「人びとにせんべいをおねだりするシカ」、「木陰でやすむシカ」などであろう。

上述したように、公園内のシカの行動はシカの行動全体の一部にすぎない。公園のシカはせんべいを訪問者からもらうことに慣れ、人間に対する警戒心がなく、むしろ近寄ってくることを念頭におく必要がある。このような奈良公園のシカによって、一般的な“シカ”のイメージができることには問題がある。

2. 奈良公園のシカのあり方をめぐって (1)

以上、奈良公園を訪れた国内の人びとが公園のシカをどのように認識しているのかについて検討したが、そこにはいろいろな問題点が浮かびあがってきた。その構図を整理し、今後の課題を示してみる。

問題にも注目する必要がある。

表8は、奈良公園のシカを見てシカに対するイメージが変わったかどうかを尋ねた結果である。変わったと答えた人びとが33%いた。どのように変わったのかを尋ねたところ、「なれなれしい」、「ずうずうしい」、「こわい」、「かわいい」、「健康的でない」、「おとなしい」、「躍動感がない」などが主な答えだった。

前の3つは、シカにせんべいを与えた時の印象によるものと考えられる。せんべいを与えた時の印象でシカの印象が決まっていく傾向は良くない。また、後の2つは、シカが休息しているところを見ての印象による

- ①奈良公園には全国から多くの人びとがやってくる。
- ②これらの人びとには、“奈良”といえば“シカ”というイメージができています。
- ③ところが、当地のシカが神鹿信仰に由来していることを知っているものは20%に満たない。
- ④多くの訪問者は、奈良公園のシカを“人馴れしているが野生”といった人間と野生動物の間がフジーな状態で受け入れている。つまり、多くの人びとには“人馴れ”と“野生”が同居しているのである。
- ⑤このような同居状態においては、シカにせんべいを与えることに抵抗がない。そして、それはシカの食性が雑食であるといったような認識につながっている。
- ⑥このような“奈良公園のシカ”のイメージが、多くの人びとの“普通一般のシカ”のイメージを形成するに至っている。

このようにしてみると、奈良公園のシカと国内からの訪問者のかかわりはけっして良好とは言えず、改善していかなければならない点がある。それらの主なものをあげてみる。

- ①奈良公園のシカの由来をはじめとして、これまでの歴史の中でのシカと人びとのかかわりや現在生じている被害問題、交通事故や過密度の問題、シカせんべいの弊害などについての情報が訪問者に理解されるような施設やシステムを構築する必要がある。
- ②由来や歴史的なかわりを考慮しながら、“人馴れ”と“野生”が別居するようなシステムづくりを検討する必要がある。

3. 海外の訪問者のシカ認識

海外からの訪問者140人にアンケート調査を実施した（写真2）。表9にそれらの回答者の属性を示した。アンケートを英語で作成したため、英語圏からの訪問者が主たる対象となった。アメリカ、イギリス、オーストラリアなどを中心に、23ヶ国の人びとから回答を得た。今回の調査では20～30代の年齢層が多く、各年齢層とも学生や教師が目立った。はからずも若者や教師が多くなったのであるが、彼らが奈良公園のシカをどのようにとら



写真2 海外から訪れた人びととシカ

えているかを検討することは極めて重要と考えられる。なぜならば、若者は未来をにない、教師は広く教えを説く存在だからである。

まず、“奈良県”あるいは“奈良”と聞いて思い起すものを3つあげてもらった。回答は、はじめて奈良公園にやってきた人と2回以上訪れている人に分けて検討した。それらは表10に示される。これをみると、双方ともシカが一位二位を占めた。回答率は国内の人びとと比較すると少し低い、それでも双方とも約半数の人びとがシカを連想している。はじめて奈良をお

総合研究所所報

表9 アンケート回答者の属性

年齢	男女	職業	宗 教	国 籍
10~19 (歳)	2 4 6人	学生 5 教会ボランティア 1	キリスト教 2 無 記 入 4	ニュージーランド 3 アメリカ 1 カナダ 1 オーストラリア 1
20~29	35 31 66	学生 25 教師 22 エンジニア 2 宣教師 2 銀行業 2 動物画 2 物理療法 1 肉体労働 1 建築技師 1 モデリスト 1 事務員 1 写真家 1 マネージャー 1 作家 1 医 師 1 弁 士 1 助産婦 1 無 記 1	キリスト教 29 ユダヤ教 1 モスレム 1 仏 教 1 無 信 13 無 仰 明 4 無 記 入 18	アメリカ 23 イギリス 13 オーストラリア 10 ドイツ 6 カナダ 5 アイルランド 1 ルーマニア 1 スウェーデン 1 デンマーク 1 スイス 1 オランダ 1 ロシア 1 フィンランド 1 西サモア 1 カボジニア 1
30~39	27 15 42	教師 15 営業 5 エンジニア 4 学生 2 主婦 2 薬剤師 2 編集者 2 銀行業 1 科 学 者 1 外交官 1 音 楽 家 1 インストラクター 1 建築業 1 看護 1 無 記 1 無 記 3	キリスト教 26 イスラム教 1 仏 教 1 ユダヤ教 1 無 信 5 無 仰 明 1 無 記 入 8	アメリカ 12 イギリス 3 カナダ 3 ドイツ 3 スウェーデン 3 オーストラリア 3 アイルランド 2 オーストラリア 1 フランス 1 韓 国 1 インドネシア 1 コスタリカ 1 ノルウェー 1 ニュージーランド 1 イタリア 1 フィンランド 1 無 記 入 1
40~49	4 5 9	教師 2 コンサルタント 2 エコノミスト 1 科 学 者 1 プログラマー 1 社 会 事 業 家 1 不 明 1	キリスト教 6 ユダヤ教 1 無 信 仰 1 無 記 入 1	アメリカ 3 イギリス 2 ドイツ 1 カナダ 1 イタリア 1 ニュージーランド 1
50~59	8 4 12	経営者 2 教師 2 理学 2 銀行業 1 秘書 1 従 業 員 1 無 記 2 無 記 1	キリスト教 7 ユダヤ教 1 ヒューマニスト 1 不 明 1 無 記 入 2	アメリカ 4 イギリス 3 カナダ 1 イタリア 1 ドイツ 1 オーストラリア 1 ハンガリー 1
60~69	1 0 1	経営者 1	無 信 仰 1	ドイツ 1
70~79	1 0 1	無 記 1	キリスト教 1	アメリカ 1
無記入	0 1 1	学生 1	無 記 入 1	韓 国 1

(アンケートより作成)

表10 “奈良県”あるいは“奈良”と聞いて連想すること

はじめてやってきた海外の人びと (97人)			2回以上訪れている海外の人びと (37人)		
回答数 (%)			回答数 (%)		
寺	院	44(45)	シ	カ	19(51)
シ	カ	39(40)	寺	院	13(35)
古	い	21(22)	古	い	7(19)
仏	陀	20(21)	大	仏	7(19)
公	園	15(15)	奈	良	6(16)
大	仏	12(12)	歴	史	4(11)
歴	史	10(10)	古	い	4(11)
文	化	9(9)	仏	陀	3(8)
古	い	9(9)	文	化	3(8)
日	本	8(8)	東	大	3(8)
回数不明 (6人)			(アンケートより作成)		

とずれる人でも半数近くがシカを連想するということは、“奈良”イコール“シカ”のイメージが訪問前からすでにあることを意味する。奈良のシカのあり方は責任重大である。

表11は、奈良公園のシカの由来について尋ねた結果である。これもまた訪問経験によって2つに分けて検討した。結果は、神鹿信仰に基づくものであることを知っていた人は双方とも10%台と低かった。しかし、国内の人びとの認知率17%との差はあまりない。

双方の人びとに奈良公園のシカをどう思うか尋ねたところ、はじめて訪問した人びとにはシカに対して良い印象と悪い印象が共にみられ、とまどっている様子がうかがえる。ところが、2回以上訪れている人びとには、奈良公園のシカに興味を示しそれを理解しようと試みる様子がうかがえる(表11)。

ここで奈良公園のシカの由来を知らない人びとが当地のシカにどのような印象をもったかをみしてみる。表12はその結果である。はじめてやってきた人びとも2回以上訪れている人びとも、ともに肯定的な見方と否定的な見方に別れた。肯定的な見方と否定的な見方の内容は表に示すとおりである。

では、なぜこのように見方が割れるのであろうか。筆者はその理由を次のように考えた。肯定的な見方は、奈良公園のシカが‘観光用にセッティングされたもの’、‘飼われているもの’といった潜入観念のもとにみている「割りきり型の見方」である。一方、否定的な見方は、奈良公園のシカをあくまで自国や欧米一般の野生のシカとの比較のもとにみる「こだわり型の見方」である。このような見方がなされているため、肯定的な見方と否定的な見方に割れると考えるのである。

表13は、自国のシカとの比較の結果である。90%の人びとが奈良公園のシカは自国のシカと

違うと回答している。どこが違うのかを尋ねたところ、89%の人びとがシカのおかれている状態が違うと答えた。これらの人びとの自国のシカの状態は、表に示すように‘野生’なのである。

表11 奈良公園のシカの由来

Do you know roots of the background of why so many deer live in Nara City or Nara Park?		
はじめてやってきた海外の人びと (97人)	2回以上訪れている海外の人びと (37人)	計
知っている 11人 (11%)	知っている 5人 (14%)	16人 (12%)
知らない 86人 (89%)	知らない 32人 (86%)	118人 (88%)
※知っている内容		
<ul style="list-style-type: none"> ◆Religious significance ◆The people living here thinks that the deer protect them ◆I only know a little bit ◆I think is a religious root ◆holy ◆Sacred messenger animal ◆messengers ◆Deer are regarded as sacred ◆Yes, local custom "deliver message from god" ◆未記入 1人 不明 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ◆People of Nara used to pray to a kami-sama in the shape of a (white) deer ◆Sacred deer of ◆Prince Shotoku rode a deer, kami appeared on deer ◆I believe the deer are associated with kasugataisha and are considered to be representatives of the Gods ◆They are considered sacred messengers of the gods 	
※奈良公園のシカについて		
<ul style="list-style-type: none"> ◇O.K. ◇very tame ◇beautiful but not normal life ◇Many of the deer look sick and depressed ◇I hope that deer are free to go in the forest ◇very familiar ◇resting by the highway just like home ◇unhappy, tired. Make them happy ◇very nice ◇Thank you your hospitality ◇不明 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ◇They make a lovely sight for tourists and help people to feel close to nature ◇Good luck managing them ◇friendly, hungry, natural ◇I find the deer's ability to survive in the urban environment quite fassinating. They have adapted well and people seem to have adapted well to them ◇I worry about them when they eat plastic and get into the trash. Also traffic accidents are a problem 	

(アンケートより作成)

表12 由来を知らない人びとの奈良公園のシカについての印象

はじめてやってきた海外の人びと (86人)		2回以上訪れている海外の人びと (32人)	
肯定的	40人 (47%)	肯定的	19人 (59%)
否定的	37人 (43%)	否定的	11人 (34%)
無記入・不明	9人 (10%)	無記入・不明	2人 (6%)
肯定的 They seem to be happy friendly beautiful seem very tame O.K. very well fed interesting tourist attraction		肯定的 They look peaceful friendly fine tame O.K. well fed nice tourist attraction important part of the Park	
否定的 should be free without people around in the wild very spoiled do not look healthy sad, pathetic strange over feed annoying, nuisance		否定的 unnatural not nice They look unhappy visitors should not be allowed to overfeed them with 'senbei' annoying	

(アンケートより作成)

表13 自国のシカとの比較

自国にシカがいる人びと	119人 (85%)
(自国にシカがいない人びと	21人 (15%))
違	う 107人 (90%)
同	じ 6人 (5%)
無記入・不明	6人 (5%)
何が違うのか？	
状	態 95人 (89%)
姿	・ 形 12人 (11%)

状態の内容

our deers are wild
wild and afraid of people
shy and seldom been seen
usually live in mountain, not be
seen in cities

(アンケートより作成)

4. 奈良公園のシカのあり方をめぐって（2）

以上、海外からの訪問者の奈良公園のシカに対する認識を検討してきたが、ここでもいくつかの問題点が指摘された。その構図を整理し、今後の課題を示してみる。

- ①奈良公園には多くの外国人がやってくる。今回とったアンケートでは、20～30代の学生や教師が目立った。
- ②これらの人びとには、“奈良”といえば“シカ”というイメージができています。
- ③ところが、当地のシカの由来を知っているものは10%強にすぎない。
- ④由来を知っているものは、奈良公園のシカに関心を示す。
- ⑤由来を知らないものは、欧米一般の“野生シカ”の通念を判断基準として奈良公園のシカをみる。この場合、観光用にセッティングされたもの、飼われているものとしてみる見方と、あくまで“野生シカ”との比較でみる見方によって奈良公園のシカの評価が異なる。しかし、両者は同根とみなされる。

このような状況にある奈良公園のシカと海外からの訪問者のかかわりはけっして良好とはいえない。ここでは、次のような点を検討していく必要がある。

- ①奈良公園のシカの由来をはじめとして、これまでの歴史の中でのシカと人びとのかかわりや現在生じている被害問題、交通事故や過密度の問題、シカせんべいの弊害などについての情報が訪問者に理解されるような施設やシステムを構築する必要がある。
- ②そうすることによって、海外からの訪問者が奈良公園のシカのあるべき姿を念頭においてこれらのシカをみしてくれるようにする。

海外からの訪問者にかかわる奈良の観光とシカの問題は、このような中であるべき方向が検討されていく必要がある。

おわりに

国内観光のメッカの一つである奈良。加えて国際観光都市をめざす奈良。このように内外にむけて観光王国をアピールする奈良にあって、奈良公園のシカは‘奈良観光’のキーポイントの一つとなってきた。しかし、みてきたように奈良公園のシカをめぐっては様々な問題があり、解決すべき課題がある。今後は、行政、市民、県民あげてこの問題の解決をすすめていく必要がある。

参考文献

- ・朝日 稔(1982)：奈良のシカ. 奈良公園史編集委員会編『奈良公園史 自然編』49～62.
- ・高橋春成(1996)：奈良公園を訪れた人びとのシカ意識. 地理, 41(10), 50～55.
- ・藤田 和(1995)：『奈良のシカ略年表』 ゆるき.